

八ヶ岳 旭岳東稜

【日時】 平成31年4月6～7日

【メンバー】 Y川 (L)、K

【概要】

6日 快晴

3月23～24日に旭岳東稜を目指したが、ノートレースの腰ラッセルに苦しみ 2200m 付近で早急に撤退した。今回は再挑戦である。

朝7時過ぎに美の森駐車場を出発、ゆっくりと出合い小屋を目指す。雪解けが進み、前回林道はほとんど雪に覆われていたが、今回雪が多くなるのは林道を終えてからであった。出合い小屋にはテントが張られており、どこかに出かけているようである。今回は上ノ権現沢側から東稜に取り付くこととし、分岐を右にとる。100m ほど行った左斜面にトレースが付けられており、これを利用して稜上に出たが1時間かからず、前回ラッセルで苦しんだのが嘘のような労力であった。しばらく行くと先行2人パーティが休憩しており、偵察のため五段ノ宮の下まで登りたいとのこと。ここからはトレースが無く、少し登ってワカンを履いて登る。前回引き返した 2200m 付近のギャップ手前でワカンを脱ぎ、ルートを考える。先行2人パーティは、右側を懸垂して巻きを選択した。ここでロープを付け、やせたリッジの偵察に向かう。前回切れ落ちたように見えた尾根は、段々になってギャップに落ち込んでおり、クライムダウンもできそうである。しかし、雪の状態が今一つなので我々も右側壁を懸垂で 25m 下降し、先行者のトレースを使い巻いた。この先は部分的に細い箇所もあり、1箇所でもロープを使用した概ね登りやすい尾根であった。

しばらく行くと急斜面の雪壁があり、この手前で先行者が引き返して来た。ルートが良く分からず、時間切れで引き返したそうである。急斜面手前でアンザイレンし、まずはトレースをたどる。途中でトレースは消滅し、先行者が言っていた右斜め上に登ってみる。先にはテープも見られたが、不安定な雪壁の登りなので一旦戻り、直上ルートに切り替える。灌木をたよりに登って行くと露岩に行き当たるが、左上を見ると立木に古いスリングが確認できた。そこで、木の根をホールドにして5m ほどトラバースして立木へ。この上は細いリッジ状で、傾斜はそこそこあるが登りやすそうであり、これが正解と確信する。リッジを終えると尾根は広くなり、しばらくで凹状の広い雪壁に行き着く。上部が急に見えるので、アンザイレンしてダブルアックスで登り、ほぼ 50m 登って灌木でビレー。途中、氷化した部分もあった。次は少し登って左側のリッジに上がり、また雪壁を 45m 登って立木でビレー。ここからは雪壁を登って稜線に復帰し、40m でビレー。すぐ先には五段ノ宮基部が見えており、ここから 10m 強で五段ノ宮基部に到着。尾根は狭くさっそくテン場作りにはいる。なんとか1張りのスペースを確保し、19時過ぎにテントに転がり込んでほっと一息ついた。

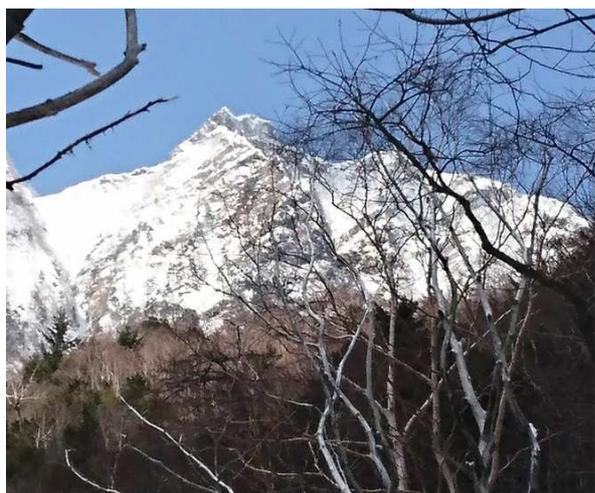
7日 曇り後雪

昨夜は遅かったので起床5時としてゆっくりしていると、6時過ぎには下から軽装の2人パーティが上がって来、五段ノ宮に取りついた。以後、続々と軽装の日帰り組が上がって来る。すべてが、五段ノ宮直登ルートに登って行く。我々は6時半頃出発、まず横の枯れた立木でビレーを取り、五段ノ宮側面基部の雪壁を 20m ほどトラバースして木の根でビレー。ここからは、露岩のある草付きを直上し、約 30m で立木を使いビレー。次はほぼ直上で、Ⅲ級程度の 30m の登りで稜線に復帰し、ハイマツの根を使いビレーする。ここから先は、細い雪稜が旭岳頂上まで伸びている。ピッケルとバイルを交互に突き刺しながら、快適に細い雪稜を辿るが、雪がそこそこ締まっているので不安定な感じは少なく、また所々灌木で支点も取れた。最後のポイントである小ピークの乗越は、直登とする。左上するバンドも使えそうだが、バンドを回り込んだ後の様子が分からないので灌木が確認できる直登ルートとし、灌木で支点を取りつつ草付き斜面を登って約

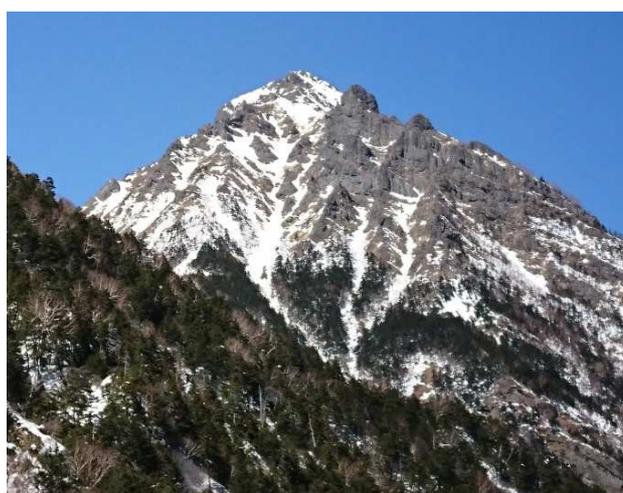
30m ロープを伸ばし、小ピーク頂上で雪面にピッケルとバイルを打ち込んでビレー。小ピークの目の前が旭岳頂上で、細い尾根を辿って 30m 強で頂上に達した。五段ノ宮の巻き終了点から旭岳頂上まで、5ピッチであった。冷たい風にさらされ、途端に体が冷えてくる。怪しげな雲が西に確認できるので、ギアの片付けもそこそこにしてツルネへと下山を開始する。風を避けるため、ツルネから東稜側に少し入った樹林帯で大休止し、ギアを片づけて一息ついた。

ここからはツルネ東稜のトレースを辿れば良いと考えていたが、下るに従いどう考えても右により過ぎたトレースであり、GPS で確認して左の尾根に乗り換え、下山を続けた。先のトレースはずっと下まで続いていた。間もなく雪も降り出し、1時間ほどのずれで稜線での雪を免れることができた。他の方の報告どおり、常に左側を意識して下ると谷に下り着き、トレースを辿り出合い小屋へ。右への誤りトレースを下りたと思われる、昨日五段ノ宮手前まで一緒だった2人組パーティのものと思われる無人テントが小屋内にあった。今日、五段ノ宮でこの2人が先行したのを確認していたが、まだ戻っておらず心配されるころだがなすすべもない。後は、黙々と歩いて美の森へと下山した。

4月6日 美の森 7時5分発 出合い小屋 9時40～50分 五段ノ宮 18時20分
7日 五段ノ宮 6時35分 旭岳頂上 10時15分 ツルネ 11時49～12時8分
出合い小屋 13時34分 美の森 15時35分



旭岳東稜を見上げる



赤岳天狗尾根



細い所も有り



五段ノ宮はまだ遠い



五段ノ宮



赤岳、中岳、阿弥陀岳



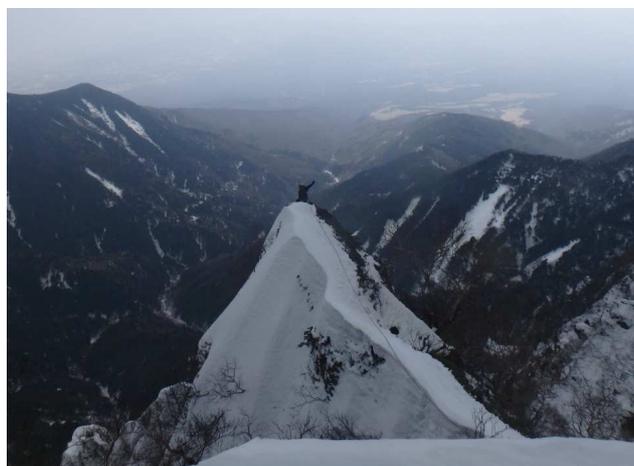
上部雪稜の登攀



上部雪稜



旭岳頂上に到達



旭岳頂上より